



佛說和歌全



三月文女並御乃

柳之め

をふはる

初物序

毎小排語乃よりと城を双紙とを
の〜に作りとと城を〜と
さ〜と〜お保えまの紅井
ぬう記を月の夕雲を〜た
を〜作り〜今新〜あり
野田入とも〜城〜
と初〜の是と城〜いちよく

好士女たるいとかなるへうしと至千尋
水石多に神しと何物といふも

女永成成壽

丸光抄

凡例

- 一 双書彩乃具并も方故もるか記
- 一 尚時言を二十句宛紙の川と成
- 一 卷末の句茶極玄妙計成示

存義

一 句つゝ弱くまうし
 実情のうらみし
 古より古人の志
 室瓢たりのしもの句
 賞色持ねか
 めつゝ約如投
 瀬ひせんうさ
 温泉場春借
 子の句 茶の湯
 形の後 驚か
 活活 故主合
 物の怪 座の森
 揚屋 京地
 上音 系系
 江戸近きすか
 邸ハムよりし

麦の巻む口と茶藨のひ
 侍儀の口と室瓢の嘆拂ひ
 若さりの杖の火吹竹 福
 羨慕しつとさふと徳と氣
 菰の内徳の中村原を亭
 壬主てるる猿ハケと糸子
 揚屋の口は口切平 信
 細中出し目と菴 信
 年川くは以日家紙

津より師一又く
と云てよおとと
たよとよくし
いと云付の皆き
きふししる白
と云てく
けふや及を数多
われとこの後
ふりてふ早も
ちれハ津浦
けふとや
子死

得事何とぞ 庭路の露を露
口も一たけり 色のもく
み竹や三四見ぬるの光
壬午の敷きしよ 曇る活系
を又帰国のさくも あり
あつたさつ 蓮草ころり 謝鶴
部せよハ 鶴鳴く 鶴草の湯
眼く色く 雲う 雲 寺
都くよ夕只けみ 枯文
近付て 義交を 坊主
山你く 巻よ 友人の子う ちて

買明

一作の作曲あり
てま〜とにま
し 有情のあ
那情のあ
のあまら情を
合て考
了らま 定心
まら
月が若く
ま 床杯 借
寺男ハよ
のう 吾系 淫
郭云 贅女 址
中治 平
死ぬし
除夜のう 陰家

さふ成く 欣ハ 橋 若
傘を 隠 時ハ たり
障日 止く ぬ 舌 び
吊 月 小ハ 橋 定
不 食 誦 ちる 庭 田
穀 ちる ちる 鞠 子
宜 小 ちる 日 仲 帆
方 袋 夜 協 小 云 仕 田
水 鳥 若 兼 あり ちる 二 究

年男 虫 秋と
ふくハ秋て 牡丹
杯ニ寄て せし
寄る 虫 点 ちと
の 秋 之
路 中 才 之 云
あり せし せし
う 一 作 月 して
せし せし せし
白 句 よ

坊 志 人 と 寄 此 中 了 床 の 意 子
芝 居 嬉 し い 不 自 在 な 奴
人 の 見 ぬ 方 に 香 紙 盛 り 嬉
ふ 一 降 ぶ と せ ぬ 小 田 原
あ せ せ し 喜 張 ぐ と せ ぬ 下
居 之 一 一 勢 張 振 白 鏡 山
年 九 夕 日 と 弱 れ て 死 ぬ 候
その 中 小 柳 と 寄 ち ち せ し 書
提 灯 さ け て 茶 ぶ ぬ の 赤 紙
二 三 丁 年 年 追 の ぶ ぬ 扇
門 松 八 冬 せ し 人 ぬ ぬ ぶ て 至

樓川

一 作 和 せし せし 合
たる 成 情 せし
又 是 秋 白 句 せし せし
ま せし
梅 せし せし せし 梅
推 の ぬ 賞 免
牡丹 温泉
床 意 の 白 句 せし
古 才 せし せし せし
舞 舞 士 和 俳
蕉 門 古 人 の 意
侍 勢 基 意
意 の 白 句 せし せし
う せし せし せし
ぬ せし せし
その 白 句 の に

望 刺 志 見 の 批 ち 桂
御 掛 せ ぬ 寺 に 以 茶
鞠 場 せし 正 客 の 人
云 用 丁 以 石 印 三 ち 寄 せし
塞 せし せし 夜 舞 せし せし 不 戒 川
批 杷 の 意 せし せし 障 子 紙 立 寄 れ
掃 地 せし せし せし せし 所
帝 白 句 の 俗 衣 袂 牡丹 の 意
淵 糸 せし せし せし 物 せし

何れもあし
そねうし
二月三日
二月廿二日
三月十日

高んぬふも 別初め
移す女とあしく 影の叶
あの日ついで月も付 物も星
山吹ハ細工のよく 酒も咲
曲もやほふふとまうね
恋のうらまをさるふ夜と成ら
牡丹の影のついで内も 湯も利
春の素の根もついで 花も
うらまのふも夜に女もあつて
出遠ふも留まらぬ 梅のついで

百萬

後さふくも 庵
あか
こらく 裁合
うし
基 那素 主碑
商人 舞女
坊主 物付
度 女
食 物 歌
地 表 石 佛
大 仙 迷 子
旅 芝 居 火 吹 竹
居 居
け 居
居

素系橋千提物 紙も
肝心の時 疎遠の途 昔所
心水行切り 刀柄 縁
古戦場の石のなり 地
井 巽 小 倉 尾 出 放
鳴 亮 々 々 々 々 々 々 々
高 木 所 幸 々 々 々 々 々
主 碑 の 脈 々 々 々 々 々
又 々 々 々 々 々 々 々 々 々

夕のは立てに旅
のよき旅く

放ちり

捕り候

捕り候

遊人かてよ
一息の夕
をよ揚る

初つひのひついでて老
翁おきなありしり
夕ゆふ作つくられしり
中なか位ゐたりしりは
立たしり一ひと初はつ快
ととふふ夕ゆふ元もとをを付
ててままれれいいちち年としも
石いしのの行ゆき 誰たれも
家いえ 庭にわ 通とほ夜よ
夜よ無な坐ま 床とこ
孝たか行ゆき 軍ぐん 道みち
爰こゝ 方かた 大おほ 伴ばん
蓮れん 今いま 朝あさ のの 林はやし
堂どう 清きよ 海うみ 蔵くら 許もと
長なが 救きう のの 尺しゃく 蠟ろう
火か 多おほ 樂がく 筆ひつ

あ〜く人を怖き大一本
少海も丸くぬきく赤良法師
巾出おろし袷貫り人と連立て
杖更〜教し二つ三つ遠柳
帆掛無命の足踏端止し
あ〜一紙つく孝行の娘
おん底る仙等も強しく
客更更り〜と志〜ぬ 鮮
汐波ぬ志雲の浦波原空
何言〜〜十日原〜子母智

雑口

春あ〜止る嬰児の舞
夏冬〜牡丹の咲けるあな
あ〜ハ夏の枝〜ち〜に
春の教〜三つ四つ初津の石
赤〜と〜と〜の横〜垣
紫〜し〜し〜ハ〜え〜つ〜れ
桐の花
園寂〜さ〜く〜 燈〜る〜土〜釜
豆〜し〜め〜清〜け〜る〜鄙
の存り
清世留〜る〜お〜め〜け〜る
信〜を〜る〜

救子の舞
兎の森土店
冷人地家
ささるま
付言ふかめら元
味もさし中
実情感懐の
し云挿てハ
り一舞の
句押出てハ
振形長移
しハハ
考し
お

ふ湯も茶を氷る夜舟の
少門のつられて兎灯と若
里山夜舟の扇のささる
及もまの怖そつゆる
いとる糸れハ家深き初来
世の文もた林ハ替ぬはる山
嘆し初歩は川向が船の林
水晶れ洗敷くま家世の侍
考もまの雲もささるにたぬ
旅のこ灯も山落もけりて

襖丞

路のささる
一軍の句
付仕立
加高氣陳中
筆舞守ま
競る伊持
右近舟知
枕の子の
乃者親の句
矢所古書
孤六人孝行
四院
直の句ハ仕言有
し句中
恋ハ
付と考

ふ打さ度長も坐木門
体むるは唄けりも神田橋
る漏も移を籠の柳
汗たさるる地の上
二足は川にささる砂の上
汲りぬ家伽も一多海村の大
長珠の物ハあまの遠
籠も月ハまらるる白松子
討死と取る兎も考と考

し、籠口卓の
ふ持りて又田女
と合とこらし有
一ふらめらさる

舞臺し 陳中世 宗二
ふよ同ふふよこく物犯し
秋来ぬと様御る 虫もあつて
焚火しておぼふ家も床の
今口と実あつて陣の影信
筆城の命あつて林の家
空をふふ洗ひ上たる青の葱
櫃の依のふくれ 之たけ
橋の香をちつとさ下るる
梅も野とちつとえとあつて

多少

初らねりかし
存るのま味も
主祝男 主祝女
官也 聖さる
両舎 上言去所
乃既 時与行師
教の句 旅伴
笈 夜舟 傷
水也 汲汲る若
傍 古代の賞也
茶峯しり
空を弘京比夫
旅伴の句こ物
り
句島島もてる

時守に常香枝物をい書 城
橋とし子賣ら子買せとらと
御中 夜の待も扱中
言あく 鶴さ娘える本綿賣
辞世未 練もおに下りの句
宅と見え入るる 喰ふの飯
沖啼く 牽つて連る 扱て
指腹も 靴も 犯ると村も
おとさるる 春も 高小 舞臺

多形一と仕立し
一作終り白と
あり判きく
二句の後
大くく

多形一と仕立し
一作終り白と
あり判きく
二句の後
大くく
多形一と仕立し
一作終り白と
あり判きく
二句の後
大くく
多形一と仕立し
一作終り白と
あり判きく
二句の後
大くく

温克

和らふ曲をゆら
き所よし一京と
云句
北川 四糸清流
多形一と仕立し
一作終り白と
あり判きく
二句の後
大くく

多形一と仕立し
一作終り白と
あり判きく
二句の後
大くく
多形一と仕立し
一作終り白と
あり判きく
二句の後
大くく
多形一と仕立し
一作終り白と
あり判きく
二句の後
大くく

勺作まはさ
とまはさ
おまはさ
北まはさ

其堂は為ともはるの雨舎り
欠るのゆき帰る板系う
其堂は雨舎りと一りく
整まよく系まのし包折る
英しく候る時海の影ありけ
萬葉と傳く影に大屋一居
実ま一けに日影は雲の影地
梅枝して人成牙醫の影い消し
可屋下もゆき歸る杖のさる
まゝの庫裏は田植の影まゝ

在轉

強弱又和うね
所まはさ
相弱名新 東海道
地名名物まはさ
巨細もたつては
勺作まはさ
はままはさ
温泉場 持いろ
川まはさ
ままはさ
並巡まはさ
中禅寺堂まはさ

首栗や雲巾居の三つ舞
まを折ぬ陸牛ちのこま 在
くはり平て昔は結ひのまけり
八本の口花折あく寺のま
花まのぬ夜まを寺は彼居候
門四草の屋の二とありし
夕まを日と茶師ハニタま
髪まを不まけハ系系り
世信るまを乳母の教へる色ま

外山 芝居ハ
外ハ引出シキの
物ニ子合テ伝達
ニ仕立
只所ニ仕立様
考クシリ
ニ於テ
又合

小治のり又和
うも有
頼のり多し
益人 旅伴
軍のり仕立
茶の湯 日北
物怪 主冥 狐
死冥 狸 雲女
節伏 どんよく
かまもん 大住主
捕丸 妹 油出
指 大樹寺
兎合 路 感
一 実情のり
ふし 存 長
のり味合も有

不忠の松もやけし
柄系や実所の中
海
赤原山ハ昔
平塚
次田町の
谷七
桐
言京の
初松
細中
青
湯泉
類
田所
海

小知

控るゆ
捕丸
化されハ
梶田
大住主
はく
家
火
春

物々
 作る
 かき

七段、まゝ原の坊の墓
 粘節又まゝ成と師の
 禪多、大木庵の堀
 太乳の裾、食残りの
 庵へ投ぐまゝ、大
 物の怪の怪、まゝ
 白雲まゝ、白雲ま
 握む、ゆるゝ、大
 時の使、候、まゝ
 まゝ、まゝの、ま

叶因

後の方か
 万の、まゝ
 まゝの、ま
 まゝの、ま
 まゝの、ま
 まゝの、ま
 まゝの、ま
 まゝの、ま
 まゝの、ま
 まゝの、ま
 まゝの、ま
 まゝの、ま
 まゝの、ま
 まゝの、ま

此も、まゝ、萬
 野の、まゝ、ま
 日盛、まゝ、ま
 亦、まゝ、ま
 藤、まゝ、ま
 赤、まゝ、ま
 林、まゝ、ま
 雪、まゝ、ま
 法、まゝ、ま

付て
多事あり
附取判事
左のさき
るいし
るいし

果ては例れにかろくこととて
白とこちハクもる下のみ
掃出に例る原情くもる
菊もみも糸も杖の張る
灸や言もせぬと笑ふ有信事
二三日止て又約る林の致を
見新多し京の幸く
隣り隣りあつてさあ振
提打らぬ投の橋或押合
旅序の繩も梅のたき振
削りけりさう上く付させ

常仙

初の日路り
付て
一田舎作あり
會下 北中 夜細
右 宇治子
扱 并居るあり
免 児子
子節 居るあり
牙 摩 不
三吉節 節後
閑居 古記 小節
掛 兼 鉄
梅 寺 京北
節 七 棚 経 茶 坊
田 菜 取 橋 船

西の宿の白井を越るに夜客
あて女の体む日影も秋の清
幸の以有御室のりる成花の
この地花の目もさわく雲の衣
汁妙のへんと付せりる葉も
菊作の袖も仏の裳も
影もんハ高の四糸の肌
会下の表も清けり
北中へあつる高折の伏

四糸 乳川 彦
若草橋 都呂
魂棚 べんしき
河津 文又
ヤサリ
都々実情のあ
夕之を付成考へ
し一夕をくれば
付候り候しんは
とて少なき
のら持河一併
ハ伊達よりして
而ふに候る候也

宗梅

和之京北之
河津 小倉
知孝 仁和寺
常男 切通
河津 梶 御つち
八軒屋 毎園山
大文字 妙法
伯人 御 雨降
清多 深草
珠教 下 朱雀
是ホ大方 彦
イナ いら 彦
そへし
たつぬ

花づくも原うつわさき寺の梅
も竹そ之りえぬるれ花もも
ゆまよとすさ灯籠の苦むして
亭坊ハ岡ちお池をぬぬし
俵あむ小窓ゆゆハ冬迎し
二人禿の顔ハかいくれ
口一日ぬの赤子くくハ
右文り之く一節ハ下
乙入く提る四糸の小提灯
燈江信の一人歌ぬく而舎り
賞ハハ喜る閑居の意ハ終れぬ

宗梅

妻口ハねつけの梅えん
多さハハ居ハハ居ハハ
對ハ若く禿ハ常蘭ハハ
播待の候ハハ信の清備ハ
赤く涼ねハハ四糸ハハハ
粉茶ハハ茶ハハハハハ
内影信ハハ茶ハハハハハ
節ハハハハハハハハハハ
息太寺ハハ這入る田ハハハ

一斗さく
仕立又
馬

閑居の卓より女は
こくらハハ知月も計城信母
出さく物と、日向る雨行
床年、井方の宮く昔系
主主名弘序ねく、の礎石
降、うら志賀の都、近
柳、録古着、賣る丁
吟を、一、く、記さ、来、て、居
三国、な、も、夏、知、志、向、く、筆、地
昇、かく、一、寺、め、亭、り
り、妻、と、四、糸、へ、振、る、折、新、寺

葵足

後、方、の、さ、く、さ、く
こ、も、あ、り、者、り
め、の、う、ら、は、し
深、縁、御、た、り、
子、衣、死、主、祝、女
主、祝、男、を、御、魂
床、中、に、治、郭、云
知、職、子、子、察
さ、三、條、茶、の、湯
娘、深、長、意、雄
多、兜、夜、系
内、務、新、御、田
能、賀、の、り、高
舟、宮、下、古、り
早、乙、女、寺、ま、り、也
冷、下、物

早乙女の版を、ぬれ、ハ、布、の、鏡
田、中、の、竹、干、髪、の、思、竹、水、茶
あ、る、さ、く、梳、の中、へ、柳、影、く
村、へ、あ、る、鳥、居、坐、る、店、の、嘆
に、ま、と、て、と、出、家、ハ、張、く、ほ、さ、う、い
床、進、へ、隣、く、も、進、へ、ま、ま、の、町
鼻、紙、を、せ、ま、き、う、上、田、の、堪、り、の、
楯、花、作、け、ハ、さ、く、後、何、甚
凄、じ、り、の、皆、御、先、め、る、寺、の、鳥

一併して仕立
段々三夕の付
候りと考し

やまけえをいせぬとねらて
茶梅 菊 菊 惠ん寺の亭
机のしりしと梅の首なる
山をうとちりり寺り 後の
舟せり子にうらほの田の
暮えと牡丹の咲ける
位く子に負けし唄は
二反 御日たつめ
寺の宿の宿ちと
赤くともと日りの
権 恒

菊堂

強弱とて日あり
云つめし
と仕立し
符儀
出格子
室の
丈
茶食
吹屋
在の
茶峯
新
敷入
舟
賞也

判文のねおそ
屏く若る下も
何そねい車の上も
門一り
松の
田屋の
敷入る
法子に
山門

水籠 一里場
涼
明
琴 降 也 医 師
部 津 社 仏 園
り
付
せ
仕
あ

下 亭 小 灯 籠 へ ち 田 村 連 へ 書
廊 之 だ 主 事 へ ち 二 三 本 佛 堂
屋 多 へ ち 於 し 小 橋 屋 門 掛 け
火 入 石 の 色 し 田 菊 の 咲 け ち
以 振 る 内 へ 茶 の け い 室 水 守
三 川 へ ち 雨 後 止 め ち 志 ぬ 医 師
木 へ ち 糸 下 へ ち 海 へ ち 舟 へ ち
田 の ち ち ぬ 内 へ ち 火 の け いた ち ち
賞 心 昔 の 二 階 へ ち 舟 へ ち ち ち
田 原 へ ち ち ち ち ち ち ち ち ち
白 頭 へ ち 掛 る 柳 の 碇 の 腐 水 繩

白頭

和
又
ち
梅 夜 舟 蠟
衣 部 温 泉 場
立 伴 鞠 場
瓜 物 屋 中 北 丸
茶 屋 経 念 寺 所
尾 谷 瑞 教 屋 下
小 浜 浜 崎 ち ち ち
有 松 原 京 ち ち
膳 所 塩 山 牧 師
教 屋 稲 棚 田
縮 毛 結 帯
伏 見 ち ち ち

田 村 丸 へ ち ち ち ち ち ち ち ち
立 ち け ち 甚 甚 ち 拂 子 ち ち ち
掃 ち ち ち ち ち ち ち ち ち
鞠 場 ち ち ち ち 温 泉 ち ち
端 泣 の ち ち ち ち 牧 師 ち
腥 ち ち ち ち 備 ち ち ち ち
山 忌 の ち ち ち ち ち ち ち ち
カ へ ち ち ち ち ち ち ち ち
ち ち ち ち ち ち ち ち ち

穀の匂 蕨 蕨
 娘娘 楊屋 堀
 千鳥 刺 刺
 小春 雪
 口元 口元
 実 実

後弱とと
 の身味合
 さく 牡丹 桐
 観 伊勢 魂 相
 旧 院 くら 野
 戸 禪 堂 乙 花 花
 通 人 名 者 似 堪
 楊 屋 會 衆 列
 雛 豆 餅 枯 節
 女 良 花 子 ノ 匂
 本 門 寺 棟 桐
 恩 是 ハ 匂 後
 盆 の 匂 定 義
 紅葉 女子 雛 吹

登 又 丸 切 落 と 堀 の 川 邊
 虫 下 小 二 日 休 め 蠅 の もら
 紋 の ね い 提 灯 の 匂 と 畑 径
 下 早 草 の 匂 部 々 存 者 志 金 波 活
 音 後 師 へ 子 紙 け ち 糸 糸 油 煮
 連 追 の た せ 二 香 け ち 梅 之 紙
 未 田 板 玉 子 竹 柱 け ち
 釈 水 へ 匂 紙 布 匂 け ち 千 鳥
 清 け 内 匂 け ち ね ね ね ね ね ね
 ね ね ね ね ね ね ね ね ね ね
 ね ね ね ね ね ね ね ね ね ね

美天

血 城 竹 匂 部 々 ね ね ね ね
 木 乃 匂 け ち ね ね ね ね ね ね
 盆 之 匂 ね ね ね ね ね ね ね ね
 七 月 月 の 陰 匂 ね ね ね ね ね ね
 ね ね ね ね ね ね ね ね ね ね
 ね ね ね ね ね ね ね ね ね ね
 ね ね ね ね ね ね ね ね ね ね
 ね ね ね ね ね ね ね ね ね ね

清原 鳴川
系 道守 本出
尾 登 娘 娘
合 親 障

四角 八寸の
仕立 三島
一 句 八 望 方 人

くも 晴の 破屋の ちの 柵の ころ
後 の さく 春の 林の 音
田 圃 の 中 の 蓮 の 花
音 の なる 八 寸 の 研 石
九 十 九 度 後 三 谷 合 會
新 帝 の 代 の 句 主 人
神 人 の 始 の 小 雲 流 の 女
確 信 夜 の 年 産 本 新 屋
而 必 ず 是 後 乃 伽 羅 男
様 の 一 句 三 句 留 留 の 短 杖
後 是 等 の 底 端 ぬ け け け 候

保牛

和 一 句 一 句 候
大 甲 一 句 作 候
十 八 人 二 夕 候
二 下 町 又 新 山
夏 一 句 十 八 句
右 羽 田 松 葉 坊
大 原 川 系 大 森
主 麦 唐 崎 柳
梅 木 村 浅 水 梅
さ 川 古 川 葉 原
ほ 後 川 早 繩
水 玉 尾 寺 釣
ま 山 の 初 郎 外 山
乳 牛 任 吉 苗 系
金 谷 長 田
金 谷 岡

能 心 の 一 句 一 句 候
右 松 の 一 句 一 句 候
綿 の 一 句 一 句 候
松 丸 小 夜 の 葉 五 の 貝 白
裁 一 句 一 句 候
其 の 来 由 亦 此 一 句 候
さ ね ぬ け け け 候
月 一 句 一 句 候
ト 結 末 亦 一 句 候

買也
一丁 漢く 年
とく 夕へ 日
し けし

おののけいばあし樹さむらひ
おちふらふらふ雨のいん
羽子板を對しおろせは漢の子
そを解き後よ誰かちあはれ
く 振といふ常 知よ 舞臺
なくく 医師の海く 生 麦
膳おはしとむよ 素玉の舟さし
常ぬさし人もさくく 卯 經
そりおさむくく 舟く 油さ
田く 物とさくく 杖さ 信
はく 是 男さ じい 垣 中

留倫

新うく上言の
比多多くよし
山新 東山
呼り候 舞臺
仔細 夜毎
棚後 田く
毎 康 歌 啼
日光 ねく
風 雲 列 寺
八坂 大文字
都の不二多山
御堂 片く
丸川 子日寺
まきま 仏 湯 泉
まき 橋 川 教 主 寺
杖のさき 大いん 坐

清世へ 近しい 合 杖 の ち
廊へ 集く 吟 詠 ば 花 人 共 の 候
こくく しまの ち 内 せ 川 經
ゆる 汁の 教 師 約 せ ち
塔く じく 津 石 の 廊
田の 海 小 舟 へ ち 観 望 屋
降 止 田く 海 下 の 屋
登 止 じく 合 候 の ち
室の 梅 こと 春 ち たま れて

梅 小神 系
野鳥ハ能 楽 巻
のウ 軍 吹 海
わ 師 武 小 油
後 姫 姑
あ 時 ち ち の
白 心 び ち ち
作 一 新 ち ち

一ウ 感 悟 の も ち
雞 口 白 早 の の
き 所 へ
茶 の 湯 利 休
道 初 宗 丹
ち 女 良 の ち
中 居 巾 什
及 ち ち ち ち
白 雨 故 ち
育 人 寺 の 著
度 以 ち 牧 師
ち ち ち ち 侍
秋 の ち ち 物 ち
物 怪 水 ち
取 化 初 師 巻
根 の ち 初 師

杖の不二まゝいふまゝしうろ
まうと見えぬ火城折竹竹居
六月二ツ所ノ縄もなる
火がくくえくく籠のたてこ
是く小蠟で澤く天 巻
幸とよれ沁くちちハ泊る巻
油井 巻 巻 巻 巻 巻 巻 巻
梅 一 ち ち ち 白 小 ち ち
巻 巻 巻 巻 巻 巻 巻 巻
大 丈 ち ち 巻 の 巻 根 ち 伯 人
極 ち 仕 ち ち ち ち ち ち ち

連馬

天 仏 ち ち 白 ち 巻 ち 巻 巻
浩 ち ち ち ち ち ち ち ち
気 の 竹 ち 巻 の 初 ち ち ち
渡 舟 の ち ち ち ち ち ち ち
正月 ち 待 ち ち ち ち ち ち ち
及 ち ち 巻 の 泊 ち 巻 ち ち ち
身 巻 ち 巻 ち 巻 ち 巻 ち 巻 ち
巻 巻 巻 巻 巻 巻 巻 巻
巻 巻 巻 巻 巻 巻 巻 巻
巻 巻 巻 巻 巻 巻 巻 巻

床 草 あり
清の海 神 たり
け 京 野 大 佐 奇
化 阿 支 離 子
児 蛇 織 梅
一 用 己 吉 節
馬 鬣 三 地 女
志 の 夕 婚 知 年
娘 赤 の 夕 暮 夕
夕 中 三 巻 二 巻
ぬ の 夕 暮

卯 ね 丸 の 若 女 埋 入 形 の 牛
海 士 々 傘 々 々 海 々 々 海 々 々
綿 子 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々
咲 一 六 十 九 の 翌 日 々 々 々
清 水 高 野 々 々 不 二 二 汲 店
山 和 障 の 山 茶 々 々 々 々 々 々
淋 一 一 の 定 日 々 々 々 々 々 々
女 人 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々
諸 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々
一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
牧 師 の 々 々 々 々 々 々 々 々 々

清 弱 々 々 々 々
付 々 々 々 々 々 々

浪 田 水 々 々 々
吳 山 誌 々 々 々
矢 形 小 京 寺
梓 々 々 々 々 々
合 飲 天 の 川
真 島 地 名 白 濁
店 常 免 々 々 々
一 俣 常 朋 台 々
の 俣 々 々 々

山 花

吸 物 々 々 々 々 々 々 々 々
節 々 々 々 々 々 々 々 々 々
矢 形 々 々 々 々 々 々 々 々
類 々 々 々 々 々 々 々 々 々
節 々 々 々 々 々 々 々 々 々
一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
逆 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々
一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

合点あれはうね来らぬあはくありうを養し
おらぬをちかぬ量あり
一何れの判れぬとせぬとらぬとせぬ
幾交とせぬとせぬと開合の塩
とせぬとせぬとせぬとせぬとせぬ
おいたとせぬとせぬとせぬとせぬ

話

けとけ 糖と糖と糖の教解
高野家のの疑難
是とせぬとせぬとせぬとせぬ

Handwritten blue ink markings, possibly a signature or date, located in the upper right quadrant of the left page.



